



ご存知ですか？「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

子供は「地域の宝」。私たちは、おばねっ子の健やかな成長を願い、「尾花沢子ども未来PLAN」をはじめとし、さまざまな取組を行っています。

幼少期から小・中学校に至る過程で、子供たちが健やかに成長するためには、保護者の方はもちろん、周囲の大人の関わり方が非常に重要になります。



国では、子供に資質・能力が育まれていく過程で見られる生活の姿を総合的に示した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示し、周囲の大人の関わり方の方針を示しています。

■ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼稚園教育パンフレット 一人一人のよさを未来へつなぐ—学校教育のはじまりとしての幼稚園教育— (令和元年12月)」より

- **健康な心と体**…自ら健康で安全な生活をつくり出せるようになる。
- **自立心**…自分の力でやり遂げる体験などを通じて自信をもって行動するようになる。
- **協同性**…友達と一緒に目的の実現に向けて考えたり協力したりするようになる。
- **道徳性・規範意識の芽生え**…よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになる。きまりを守ったりするようになる。
- **社会生活との関わり**…家族を大切にしたり、身近な人と触れ合って地域に親しみをもつようになる。遊びや生活に必要な情報を役立てて活動したり、公共施設を利用して、社会とのつながりを意識するようになる。
- **思考力の芽生え**…身近な事象から物の性質などを感じ取ったり、予想したりして、多様な関わりを楽しむようになる。
- **自然との関わり・生命尊重**…自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。生命の不思議さなどに気づき、動植物を大切にようになる。
- **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**…遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しんだりして、興味や関心、感覚をもつようになる。
- **言葉による伝え合い**…経験したことなどを言葉で伝えたり、話を聞いたりして、伝え合いを楽しむようになる。
- **豊かな感性と表現**…心動かす出来事に触れ、感じたことを表現して、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



最近、公共施設である悠美館に来る小中学生が増えています。マナーを守り、宿題をしたり、ゲームをしたりしています。



※これらは到達目標ではなく、一人一人の発達に応じて育っていきます。また、それぞれの姿の一部のみを記載しています。

幼児期にとどまらず、小中学生や大人も、自身の言動を振り返る視点になりそうです。

さて、5歳児から小学1年生の2年間を、生涯にわたる学び舎生活の基盤をつくるための重要な時期「架け橋期」と呼んでいます。市教育委員会では、来年度から幼児教育と小学校教育の関係者が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を正しく理解し、おばねっ子の健やかな成長につなげていくことを目的に「幼保小連携架け橋プログラム」の策定にとりかかります。

【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長 工藤 雅史
TEL 23-3330